

11. 参考資料

(1) 参加者事前アンケート回答

フォーラム参加学生に対し、地域貢献活動を実施する上で日頃考えていることや感じていることを事前にアンケートを行いました。結果を以下のとおりです。(回答数：4団体)

Q1.学生から見た地域課題とは？

- ・活動の継続性。
- ・高齢化による、働き手の減少及び新しいことに対する腰の重さ-前向きに取り組むまでに時間がかかること。
- ・意思統一・課題共有など、課題の優先順まで決められれば更に良いと思う。
- ・耕作放棄地の増加。特に山の端。そこから連続する里山の荒廃。
- ・都市農村交流疲れ。担い手が偏っていること。ファン化から消費者までの踏み込みがもう一步。楽しんでもらえばいいから農産物を買ってもらおうへの意識転換。来た人の住所を聞いてデータ化、新米の時期にDMするなど。
- ・高齢化。過疎化。集落の運営を支えている人々が高齢者であり、若者が絡んでいない。そのため、集落の将来に危機感を持ってはいるが、それを打開する何かを考え、さらに実行することが厳しい状態。
- ・農業人口の減少と高齢化、働き手の不足
- ・農業・林業の担い手不足、若手不足が課題だと思います。それにより、耕作地や里山の放棄、荒廃が進んでいると思います。
- ・人口(特に若手)の少なさ
- ・交流事業の運営に地域の若手が参加していないこと、まち協の機能不全
- ・世代間のつながりが薄いところ
- ・少子高齢化により、祭りの担ぎ手が少ないこと
- ・外と交流しようとしている人とそうでない人との差。
- ・子育て世代や比較的若い住人の方の活躍の場が少ない気がする。発言権・決定権があるのは高齢な方々という印象
- ・交通の便が悪い
- ・考えがあっても実行に移せない。今が手一杯。腰が重い。
- ・自治会長や町協のタスクが多い。
- ・町全体の人口が増えているのに対して、中心市街地の人口が減っていること。また、特にここ10年ほどの間に営業している商店の数が減っており、市街地から人通りが減ってしまったこと。さらに、外部からくる人々も車移動が基本で、市街地の中を歩いてまわることが少ないこと。

Q2.継続的に活動することで起きた地域の変化は？

- ・学生がおこなう活動への関心の高まり。
- ・他所の人が来ることに耐性ができた。山に手を加え続けられるのである程度、明るくなったなど変化が実感出来るようになった。成果として目に見える事で、信頼がある程度もらえ、何もしないときより地域に対して発言しやすくなった。
- ・学生活動の認知度、また期待度は、多少なりとも増えたのかも
- ・継続的に活動できていないのでわかりません。

- ・学生である我々が集落を訪れるだけで、歓迎されるようになった。特に、画期的な変革ができたわけでもなく、むしろ邪魔になっていたと思うのに、とても嬉しいことだった。
- ・顔見知りが増え、自分たち自身が活動しやすくなった。
- ・ポジティブな変化もあると思うが、「大学生頼み」のようなネガティブな変化も生じたと思う。
- ・お互いにお互いの事を分かり合えた。価値観や常識の違いの差が少し埋まったと思う。
- ・出会って仲良くなった
- ・活動を知っている、応援してくれる人が増えた
- ・学生の参加に対する敷居が低くなった
- ・何年間か同じ地域で活動を行っていくうちに、地域住民の方や地域の団体に学生の活動を認識してもらうことができた。またそれによって、学生に対し気軽に話しかけたり、積極的に活動に協力してもらえることも多くなった。

Q3.円滑な活動を実施するために地域へ要望することは？

- ・地域への要望という意味では特になし。
- ・優しい目線
- ・活動拠点の整備(宿泊場所など)
- ・学生の考え方や価値観にあまり引かないでほしい。頻繁にある訳ではないが、そういう反応をされてしまうと話づらい。
- ・学生の安全を見てくれる人がいてほしい。受け入れの責任者。
- ・学生の顔と名前を憶えてほしい。声をかけてほしい。
- ・はた祭りをつづけてほしい。
- ・地域全体でひとつの方向性を持ってほしい。

Q4.活動する中で、自分のモチベーションの保ち方は？

- ・楽しむこと。
- ・信頼されたい、地域をよくしたいという気持ち。山が手をかけると変わっていくのも嬉しいし、連れていった人に農村の楽しさを伝えられるとなお嬉しい。
- ・里山整備そのものの楽しさ。町ではできない経験(たき火、木を切る、なたを使う等)
- ・自然の中で楽しく活動できることと、自分やってるぞっていう達成感
- ・一緒に活動する仲間がいることと、活動の中で、ご褒美(美味しいもの)があること
- ・田舎で体を動かして精神を解放する楽しさ、地域の方々と交流する楽しさ
- ・里山整備など、活動そのものの楽しさ
- ・仲間と目標に向かって取り組むことの楽しさ
- ・無理しない、行きたくない時は行かない
- ・できるだけ期間を空けずに地域を訪れること
- ・モチベーションがないときは活動しない
- ・地元の方々とつながり、笑顔
- ・楽しむ/楽しんでもらう

- ・仲間
- ・友人の存在
- ・自分たちの考えや提案が少しでも、事業に生かされているという実感。さらにそれらの事業によって実際にまちが変わっていることへの達成感。たびたび訪れているうちに感じる地域や住民の方への愛着。

Q5.自分たちの活動の自己評価は？

- ・各人が2足、3足のわらじを履く中でなかなか本活動への時間的余裕が取れなかったことが課題
- ・住民の方が主役な感じをもう少し出してあげれば良いと思います。お遊びの乗っかる学生のよりコミットメントを上げる仕組みも欲しいです。会員証をスタンプ制にするとか？
- ・活動自体になかなか参加できておらず、運営面からも遠ざかっている。本来なら中心になって動くべき立場にも関わらず、サークルの活動が他人事に感じてしまう。そのため同輩にも後輩にも後ろめたさ、申し訳なさを感じる。
- ・偉そうなことを言える立場ではありませんが、いろんなところにも目を向けてやれてると思います
- ・後輩が育ち、継続して来てくれるような、楽しい雰囲気を作ることができなかった。周りを巻き込む力がなかった。そのため、100点満点中でいえば、40点くらい。
- ・ぼちぼちやってる感じで間口が広いイメージ。責任感が薄れてしまう時があるから気を付けたい。
- ・「なんとなく」役に立っている感。地域の役に立っていると思うが、活性化には貢献していないと思う。
- ・まだまだダメ
- ・中心で動いてくれている人の負担が大きい
- ・4年間のはた祭りに参加し続けており、卒業後もはた祭りに集まりたいという学生がほとんどである。学生によると、祭りへの参加は“習慣”になっているという。また地域からも学生に来続けてほしいという声が多くあがっている。知らず知らずの間に学生にとって畑地区が第二の故郷になっているように感じる。この縁を卒業後、学生生活の形にとらわれず継続することができたら
- ・やりたいことの半分も出来ず、計画や提案も途中で右往左往してしまった。現実的な計画を立てられなかったという面で、高評価には遠いと思う。

Q6.今回のテーマである「若い力で元気な丹波を」実現するうえで、地域と学生双方に有意義な活動を実施するための提案。

- ・地域に寄り添う姿勢が大事だと模範解答的に言われている中で、学生ならではの尖った主張を通そうと地域の方とやり合うことも重要かもしれないと感じている。その結果、かたちを変え、あるいは方法を見直しながら双方にとって有意義な活動へと内容を高めていけば良いのでは。
- ・日程調整などの連絡の明確化。学生がいきたいときに行きやすく、地域が来てほしいときに呼びやすいシステムを作る。
- ・農業を通じた交流。学生にとっては、実際に農作業をすることで現場を学ぶことができる。地域の人にとっては、人手不足や耕作放棄地の減少を防げる。
- ・その地域を私たち学生の第二の故郷にすること。
- ・出会いに感謝。やりたいことがあるなら一生懸命楽しめばいい。
- ・地域の若い力と学生の若い力を合わせた活動を行う。学生が卒業後、テナントミックス事業などを通じて地域で

店舗などを開くことによって、学生は恒久的に地域と関わり続けることが出来るし、地域としてもまちの中に新しい若い人が入ってくることで活性化が見込める。

Q7.行政（県、市）に対する要望は？

- ・ 予算使途の制限をなるべく減らすこと。
- ・ 事務的作業の簡略化。
- ・ もう少し広報紙などで住民に活動をアピールして欲しい。
- ・ 交通費
- ・ はた祭りでの大型バスチャーターのための補助
- ・ 今現在、特定の大学しか丹波で活動していないので、今まで以上に「学生等による地域貢献活動推進事業」を周知することによって、さらに様々な分野の学生が丹波で活動して欲しい。

Q8.その他（言っておきたいこと、聞きたいこと、フォーラムへの意気込み など）

- ・ メンバーが4回生のため継続的な活動を行えなくなってくるのが課題
- ・ 学生団体の“たたみ方”について考えてみたい。フェードアウトではなく、もっとより良い方向はないか。
- ・ 卒業後、社会人になってからの地域との関わり方

アンケート

Q1 丹波地域における大学生たちによる取り組みをどの程度ご存じでしたか。また、興味をもてましたか。

① 柏原まちづくりプロジェクト（関西学院大学、丹波市柏原町柏原地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【感想・意見等】							
② 山下ゼミ（関西学院大学、丹波市柏原町柏原地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【感想・意見等】							
③ 里山プロモーションチーム（京都大学、篠山市桑原地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【感想・意見等】							
④ ささやまファン倶楽部（神戸大学、篠山市真南条上地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【感想・意見等】							
⑤ はたもり（神戸大学、篠山市畑地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【感想・意見等】							

Q2 現地視察についていかがでしたか。

1	非常に良かった	2	少し良かった	3	あまり良くなかった	4	良くなかった
【具体的な理由】							

Q3 フリーディスカッションについていかがでしたか。

1 非常に良かった	2 少し良かった	3 あまり 良くなかった	4 良くなかった
【具体的な理由】			

Q4 本日のフォーラムについて、ご感想・ご意見など自由にお書きください。

--

〈最後に〉 あなたご自身について、お尋ねします。

住所

1 篠山市内 2 丹波市内 3 兵庫県内の他市町 4 県外 ()

性別

職業

(男 ・ 女) (学生 ・ 会社員 ・ 公務員 ・ その他 ())

年齢

(10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代以上)

ご協力ありがとうございました。

参加者アンケート集計結果

日 時：平成 26 年 12 月 13 日（土）15:55～18:00（フリーディスカッション実施時間）

全回答数：16（関係者を除く一般参加者 46 名のうち 16 名が回答）

回 答 率：35%

回答者属性

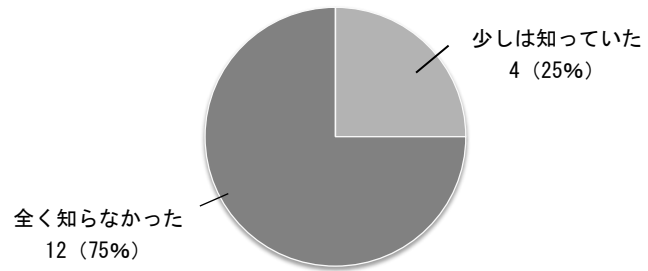
住 所	
篠山市内：0 丹波市内：2 兵庫県内の他市町：9 県外：5 無回答：0	
<p>丹波市内 2 (12.5%) 県外 5 (31.25%) 兵庫県内の他市町 9 (56.25%)</p>	
性 別	職 業
男：8 女：8 無回答：0	学生：15 会社員：0 公務員：1 その他：0 無回答：0
<p>男 8 (50%) 女 8 (50%)</p>	<p>公務員 1 (6.25%) 学生 15 (93.75%)</p>
年 齢	
10代：0 20代：15 30代：1 40代：0 50代：0 60代以上：0 無回答：0	
<p>30代 1 (6.25%) 20代 15 (93.75%)</p>	

Q1. 丹波地域における大学生たちによる取り組みをどの程度ご存じでしたか。また、興味を持ってましたか。

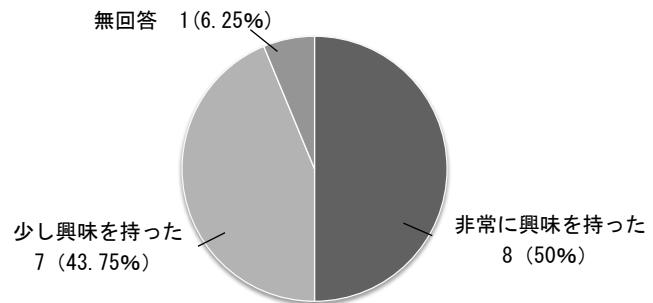
① 柏原まちづくりプロジェクト（関西学院大学、丹波市柏原町柏原地区）	
<p>1. よく知っていた 6</p> <p>2. 少しは知っていた 5</p> <p>3. 全く知らなかった 4</p> <p>無回答 1</p>	
<p>1. 非常に興味を持った 6</p> <p>2. 少し興味を持った 7</p> <p>3. あまり興味を持たなかった 0</p> <p>4. 全く興味を持たなかった 0</p> <p>無回答 3</p>	
【感想・意見等】	
<ul style="list-style-type: none"> ・展望が具体的で良かった ・使用されない駐車場を有効的に利用しようとしていることが分かった ・ゼミとの違いがよく分からなかった ・地図をもとに発表していたことは良かった ・最初に地図を写真確認できればイメージしやすかった ・地域のことを考えているなどと思った ・地域でできることをさらに考え、もっと地域と交流して活動してほしいと思った ・紐絵アートを活用した新たな動線の創出というのがとても気になった 	
② 山下ゼミ（関西学院大学、丹波市柏原町柏原地区）	
<p>1. よく知っていた 6</p> <p>2. 少しは知っていた 5</p> <p>3. 全く知らなかった 4</p> <p>無回答 1</p>	
<p>1. 非常に興味を持った 7</p> <p>2. 少し興味を持った 8</p> <p>3. あまり興味を持たなかった 0</p> <p>4. 全く興味を持たなかった 0</p> <p>無回答 1</p>	
【感想・意見等】	
<ul style="list-style-type: none"> ・柏原については知らないことが多かったが、説明を受けて観光スポットなどがよく分かった ・地域の祭りに参加するなど地域との交流を大切にしようとしていて好感が持てた。さらに頑張してほしいと思った ・同じ学校同士でもっと交流を図りたいと思った 	

③里山プロモーションチーム（京都大学、篠山市桑原地区）

1. よく知っていた	0
2. 少しは知っていた	4
3. 全く知らなかった	12
無回答	0



1. 非常に興味を持った	8
2. 少し興味を持った	7
3. あまり興味を持てなかった	0
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	1

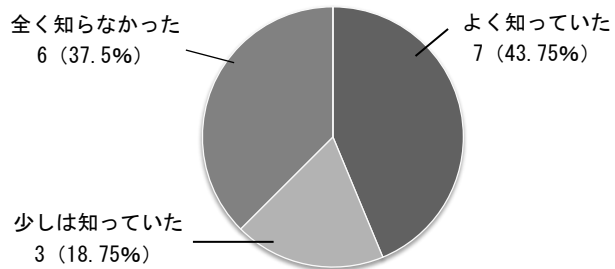


【感想・意見等】

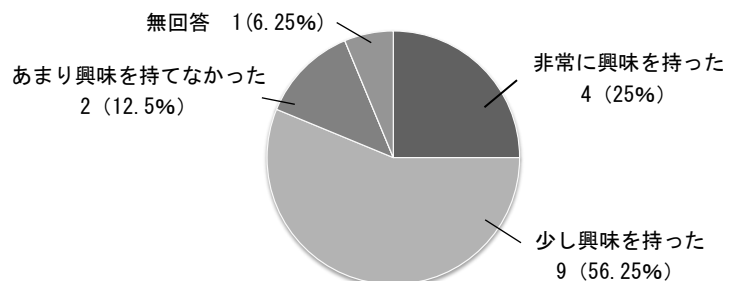
- ・実際にインタビューを行い、本音が映像化されていて面白いと感じた
- ・映像がインタビュー形式だったので住民の方々の思いが直接伝わってきた
- ・インタビュービデオでは、地元の人々の声が聞けて、とても面白かった
- ・映像化するという切り口は新鮮だったので、完成品が見たいと思った
- ・地域の祭りを継続することが難しくなっているなか、地域の人々の思いや文化を映像かすることは良いと思った
- ・映像を使った町おこしというのはとても意外だったので、とても興味を持った
- ・実際に制作中の動画を見せてもらえたため、どんな活動をしているのかがよく分かった

④ささやまファン倶楽部（神戸大学、篠山市真南条上地区）

1. よく知っていた	7
2. 少しは知っていた	3
3. 全く知らなかった	6
無回答	0

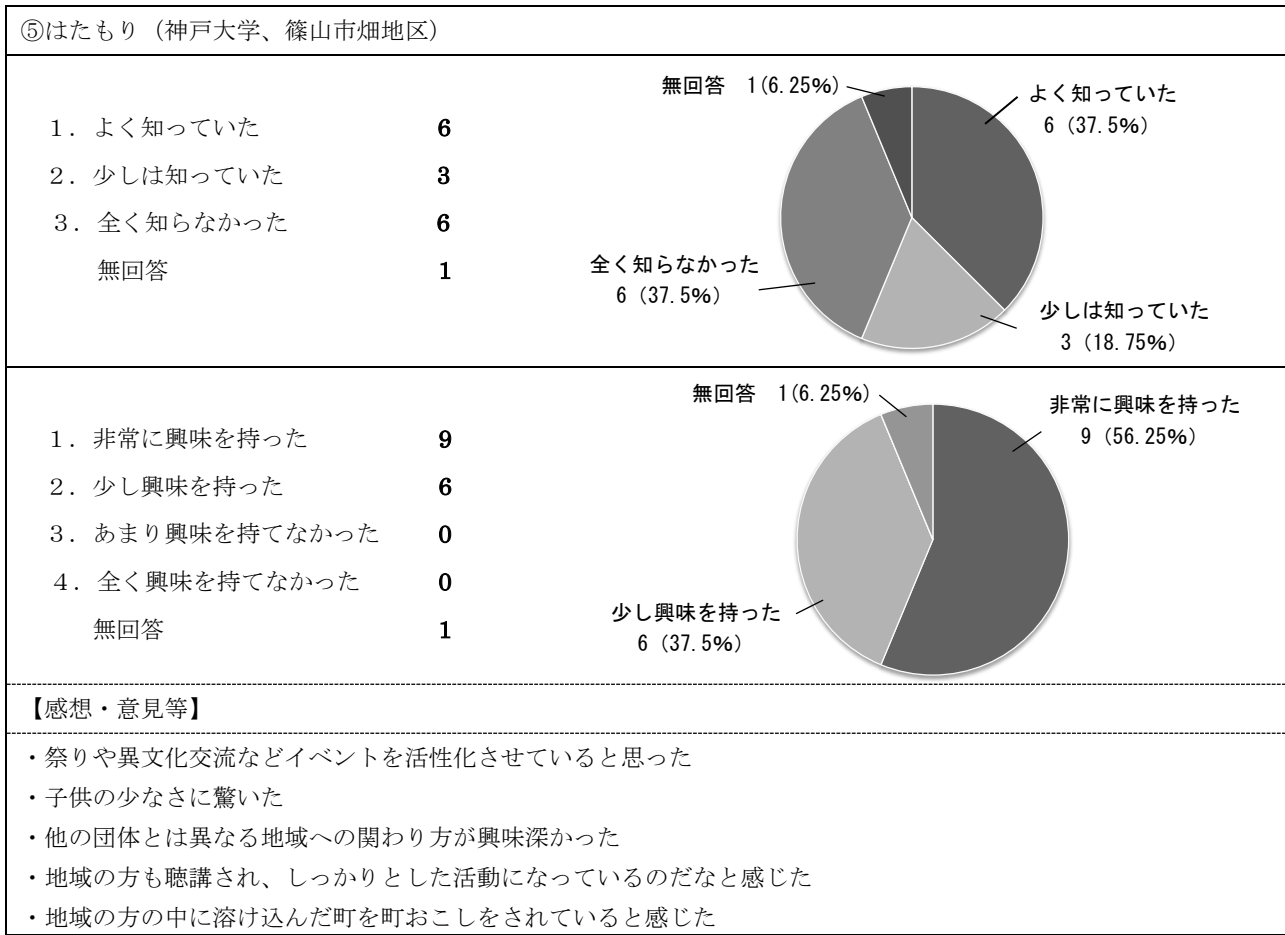


1. 非常に興味を持った	4
2. 少し興味を持った	9
3. あまり興味を持てなかった	2
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	1

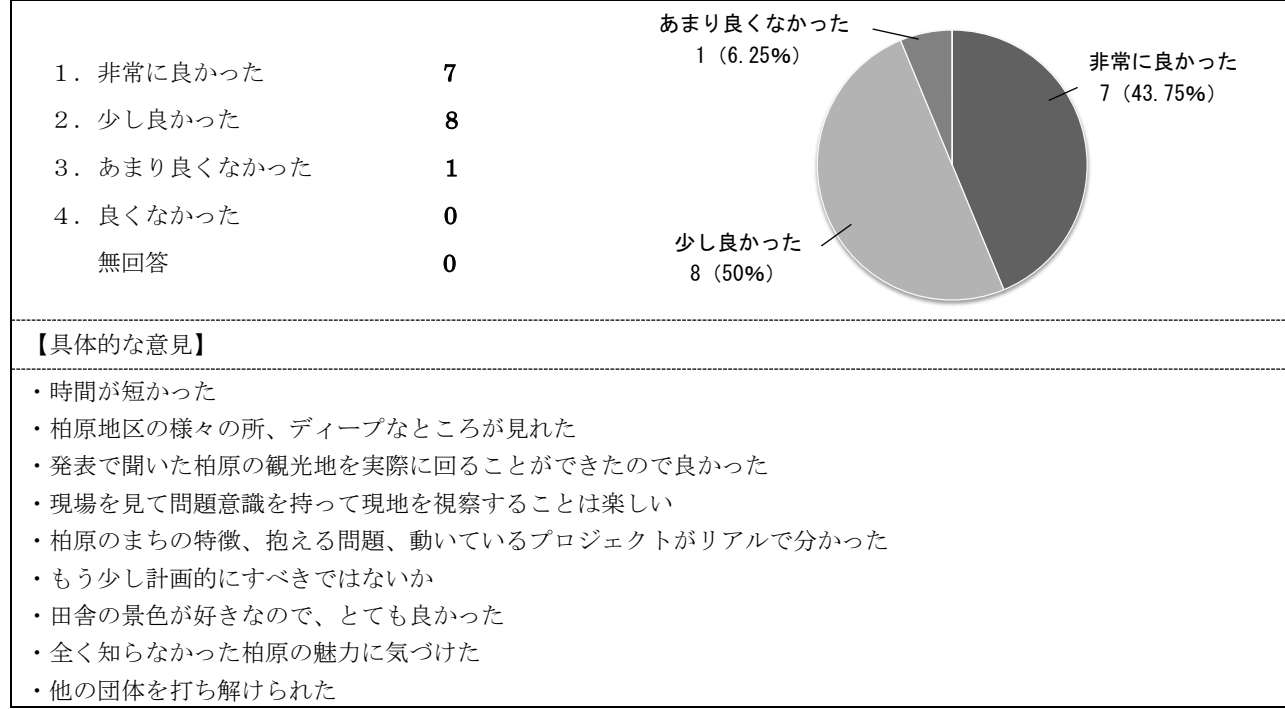


【感想・意見等】

- ・ささやま地区に住んでいる学生もいて、ささやまのことを好きなんだと感じました
- ・サークルとして地域を盛り上げていくことの大切さが理解できた
- ・卒業生も活動に参加されているところに地域との心の交流ができていると感じた

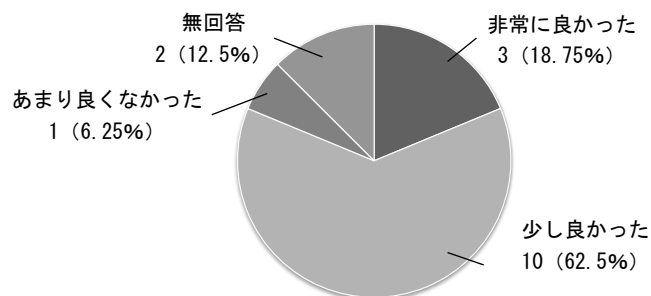


Q2 .現地視察についていかがでしたか。



Q3.フリーディスカッションについていかがでしたか。

1. 非常に良かった	3
2. 少し良かった	10
3. あまり良くなかった	1
4. 良くなかった	0
無回答	2



【具体的な意見】

- ・テーマが難しかった (2)
- ・時間が少なかった
- ・自分の意見が反映されて良かった
- ・あまり積極的に発言できなかった
- ・ワークショップ型のKJ法を用いたディスカッションはあまり好きになれない
- ・高校生を交えて議論できたことは良かった
- ・議論自体は充実したものだったが、高校生の方が話す機会がなかったので配慮が足りなかった
- ・少しぐたぐたしていた
- ・現地視察を一緒に行って打ち解けた後だったので、比較的スムーズに話を進められた。
- ・時間が短かったことがかなり残念。時間を取れば、もっとお互いの活動に踏み込んだ話ができたと感じる。

Q4.本日のフォーラムについて、ご感想・ご意見など自由にお書きください。

- ・懇親会で多くの人と交流することができて有効な時間を過ごすことができた
- ・非常においしいスイーツでした (3)
- ・他の大学と交流できる機会があって大変有意義でした
- ・良い刺激になった
- ・ゲストの講話がとても参考になった
- ・会場が寒かった
- ・もっとオープンな形にした方が地域の人に知ってもらえると思った
- ・地域からは勝手にやっている、何かしている感が強いと思うので、せっかくハピネスマーケットなど多くの人が集まる日なので、学生の考えや思いを知って欲しいと思った。
- ・勉強だけではなく、活動して有志で地域との交流を継続することがすごく良いなと思った
- ・もう少しプログラムに時間的な余裕があれば良かった
- ・知らない団体の活動報告が聞けたので良かった
- ・ゲストの方々の話を聞けたことはよかった。
- ・自分たちの活動を見直すきっかけとして、学生だけでなくやはり地域の方々も交えたフリーディスカッションの場がほしかった。
- ・活動状況報告の時に、フリーディスカッションやフォーラムのテーマに沿った話題を各団体入れた方が、さらにフリーディスカッションが有意義なものになる気がした。

(3) 開催チラシ

丹波地域大学連携フォーラム〈フリーディスカッション〉 若い力で元気な丹波を ～地域と学生のために～

大学のない丹波地域では、さまざまな大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど、学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。
このたび、標記のフォーラムを開催し、相互に理解を深めるとともに“若い力で元気な丹波を”をテーマに意見交換し、今後の活動について展望します。

日時：平成26年12月13日(土) 15:55～18:00

会場：古市場公民館

〒669-3309 丹波市柏原町柏原 3625-1

TEL0795-72-0129

◇プログラム◇

●意見交換

- ・地域にニーズをどのように把握し、どのように活動するか
- ・連携するために必要なこと

●活動経験のあるOBゲストによる学生への助言

◆フォーラムの傍聴について◆

一般参加自由（無料）です。

参加される際は、下記申込み先まで事前にご連絡をお願いします。

■申込み・問合せ先■

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会事務局
兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課
〒669-3309 丹波市柏原町柏原 688
TEL：0795-73-3863 FAX：0795-72-4596



主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

(関西大学、関西学院大学、神戸大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局)

丹波地域大学連携フォーラム

若い力で元気な丹波を

—地域と学生のために—

日時

平成 26 年 12 月 13 日 (土)
12:30~18:00

場所

古市場公民館
〒669-3309 丹波市柏原町柏原 3625-1
TEL : 0795-72-0129



主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会
(関西大学、関西学院大学、神戸大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局)

若い力で元気な丹波を ～地域と学生のために～

大学のない丹波地域では、さまざまな大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。

この度の丹波地域大学連携フォーラム・フリーディスカッションでは、日頃活動する上での疑問や課題の共有を図るとともに“若い力で元気な丹波を”をテーマに参加者全員で意見交換し、活動継続の方向性について展望します。

プログラム

■ 12:30 開会

開会挨拶 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会会長 客野 尚志
主催者挨拶 兵庫県丹波県民局長 藤原 一

■ 12:40 概要説明

兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事 足立 寿伸

■ 12:45 活動状況報告①

柏原まちづくりプロジェクト
関西学院大学 山下ゼミ

■ 13:30 現地視察

■ 14:40 活動状況報告②

里山プロモーションチーム
ささやまファン倶楽部
はたもり

■ 15:55 フリーディスカッション、コーディネーター及びゲストによる講話

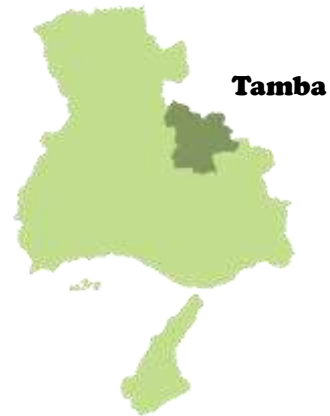
■ 18:00 閉会

Profile



(コーディネーター)
清水 陽子 氏
Yoko Shimizu

1971年東京都生まれ。2007年奈良女子大学大学院人間文化研究科修了。博士(学術)、一級建築士。民間企業での住宅・店舗などの建築設計実務を経て、大学教員へ。



(ゲスト)
松田 卓也 氏
Takuya Matsuda

1988年愛知県名古屋生まれ。2014年関西学院大学大学院総合政策研究科修士課程修了後、イオンモール株式会社勤務。



(ゲスト)
長井 拓馬 氏
Takuma Nagai

1990年大阪府箕面生まれ。2014年神戸大学大学院人間発達環境学研究科自然環境論コース生物多様性研究室入学、同年篠山市地域おこし協力隊委嘱。

柏原まちづくりプロジェクト

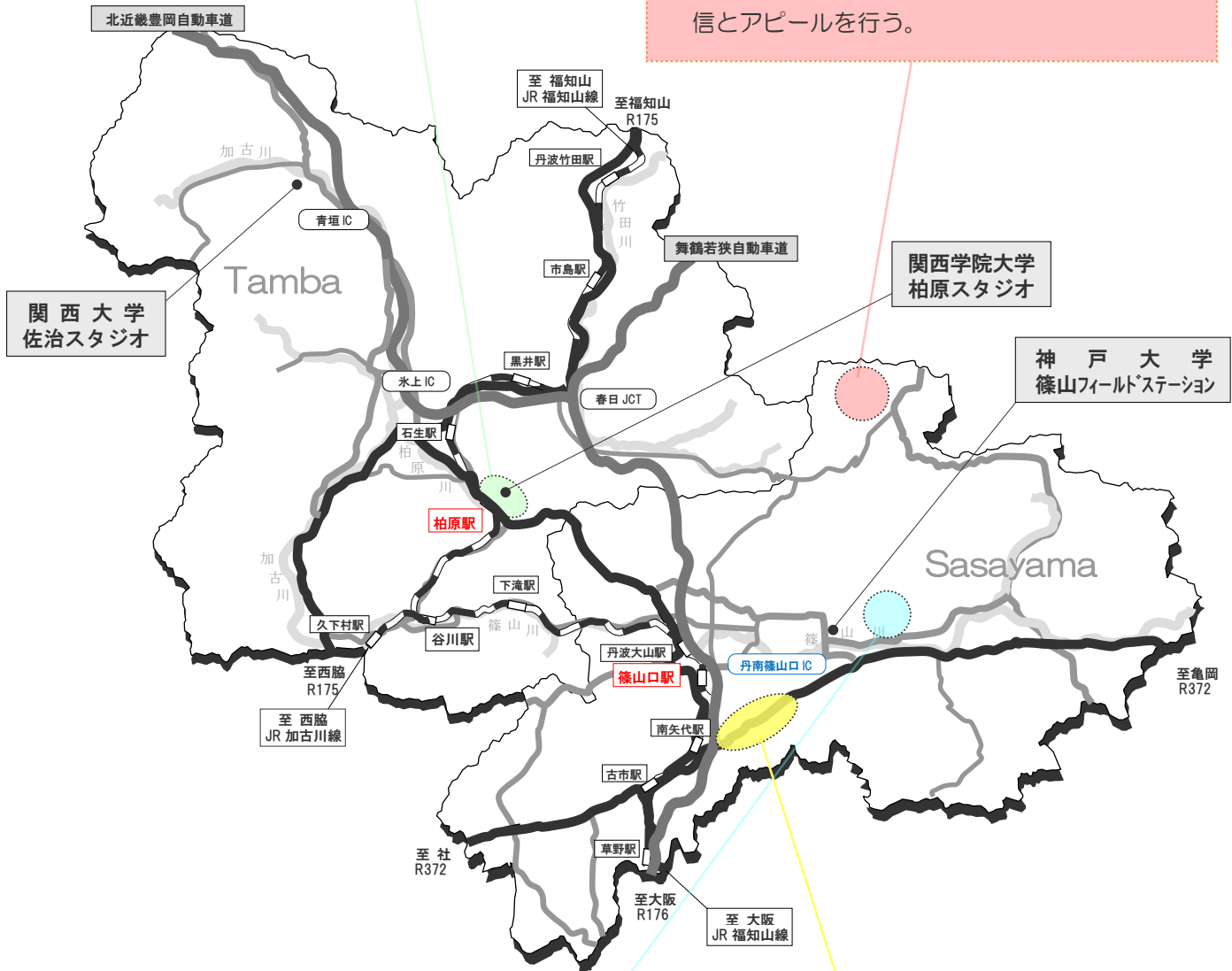
〔丹波市柏原町柏原地区〕

- 構成員 約9名〈関西学院大学〉
- 地元の高校生等の若者を中心にワークショップ等を行うことで問題意識や愛着を持つことなどを促すことや、交通面などの改善によって歩きたくなるまちをつくることにより、地域活性化の支援を行う。

里山プロモーションチーム

〔篠山市桑原地区〕

- 構成員 約8名〈京都大学〉
- 住民とのワークショップや地域活動への参加を通じ、場所・人・営みといった地域のあらゆる魅力を伝える映像を制作し、地域内外へ情報発信とアピールを行う。



はたもり 〔篠山市畑地区〕

- 構成員 約30名〈神戸大学〉
- 地域最大のイベント“はた祭り”に山車の曳き手、神輿の担ぎ手として参加するなど、地域との交流を図り、若者の少ない畑地区を盛り上げる。

ささやまファン倶楽部 〔篠山市真南条上地区〕

- 構成員 約20名〈神戸大学〉
- 少子高齢化、過疎化の進む真南条上集落にある由利山の里山整備を行う。また、地元特産の農産物を加工して都市部で販売することにより、都市住民にその魅力をPRする。



丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 事務局
兵庫県丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 688
TEL : 0795-73-3863 FAX : 0795-72-4596

(5) 実行委員会

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 会則

- (名称)
第1条 この会は、丹波地域大学連携フォーラム実行委員会（以下「実行委員会」という。）という。
- (目的)
第2条 実行委員会は、丹波地域において大学が地域と連携して行うまちづくりや農業等に関する活動の発信及び大学と地域の連携の発展を目的とした丹波地域大学連携フォーラム等の実施に関する企画調整及び進行管理を行い、適切かつ円滑に遂行することを目的とする。
- (事業)
第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
 (1) 企画及び事業計画の策定に関すること
 (2) 総合調整及び進行管理に関すること
 (3) 広報活動の推進に関すること
 (4) その他必要な事項
- (専決処分)
第7条 会長は実行委員会を招集するいとまがないとき、又は本会の権限に属する事項で簡易なものについては、これを専決処分することができる。
 2 前項の規定により専決処分したときは、会長は、これを次の実行委員会において報告しなければならない。
- (会計)
第8条 実行委員会の会計は、事務局が処理する。
 2 実行委員会の経理は、負担金その他の収入をもって充てる。
- (役員)
第5条 実行委員会に、会長1名、副会長3名を置く。
 2 会長は、委員の互選によりこれを定め、副会長は委員の中から会長が指名する。
 3 会長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。
 4 副会長は、会長を補佐し、会長が不在のとき、または会長に事故があるときは、その職務を代行する。
 5 監事は、丹波県民局丹波土木事務所工事業務課長をもって充てる。
 6 監事は、会計を監査する。
- (事務局)
第9条 実行委員会の事務局は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課に置く。
 2 事務局長は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課長の職にある者をもって充てる。
- (会議)
第6条 実行委員会の会議は、必要に応じて会長が招集し、会長がその議長となる。
- (補則)
第10条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。
- 附則
この会則は、平成26年10月30日から施行する。

別表

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会委員

(順不同)

氏名	分野	所属団体・役職	備考
江川直樹	学識経験者	関西大学 環境都市工学部 教授	会長
角野幸博	学識経験者	関西学院大学 総合政策学部 教授	副会長
高田理	学識経験者	神戸大学大学院 農学研究科 教授	副会長
上田英樹	行政	篠山市 政策部長	委員
安田英樹	行政	丹波市 企画総務部長	委員
足立寿伸	行政	兵庫県 丹波県民局丹波土木事務所 まちづくり参事	委員
間嶋泰則	行政	兵庫県 丹波県民局丹波土木事務所 工事業務課長	監事

<事務局> 丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課長 永田 佳幸

丹波地域大学連携フォーラム

報告書

平成 27 年 3 月発行

編集・発行 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会事務局
兵庫県丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 688
TEL : 0795-73-3863、FAX : 0795-72-4596